

中国の2023年実質GDP成長率は5.2%

～政府目標を達成～

◆12月指標は強弱まちまち

1月17日に発表された中国の2023年10-12月期実質GDP(国内総生産)成長率は、前年同期比+5.2%と前期(同+4.9%)から加速しました。2023年通年の成長率は前年比+5.2%となりました。李強首相が16日の世界経済フォーラム年次総会(ダボス会議)で述べた通りの結果でした。中国経済は「ゼロコロナ」政策終了後の回復ペースの鈍さが指摘されていましたが、政府の対策などにより、5%前後という政府目標を達成しました。

同時に発表された12月分の指標は強弱まちまちでした。工業生産は前年同月比+6.8%と高い伸びとなりました。一方、小売売上高は同+7.4%と前月(同+10.1%)から減速しました。

固定資産投資(1-12月)は前年同期比+3.0%と前月実績や市場予想(ともに同+2.9%)を小幅に上回りました。マンション建設などが含まれる不動産開発投資(1-12月)は、同▲9.6%と市場予想(▲9.5%)を上回るマイナス幅で、不動産分野の低迷を改めて印象付けました。

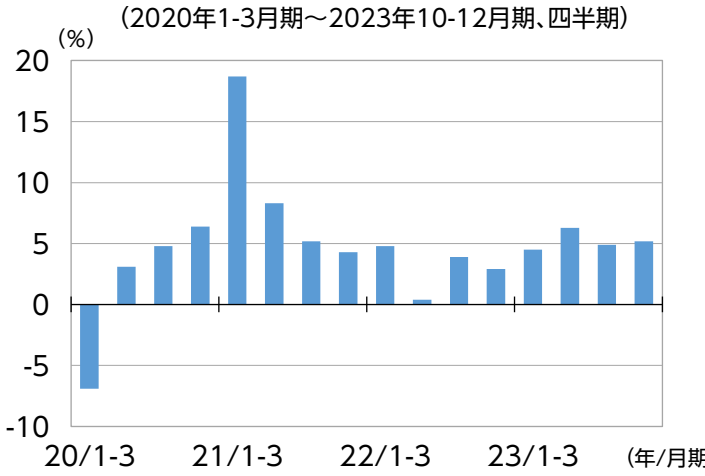
◆今後の見通し

中国人民銀行は15日、1年物中期貸出ファシリティ(MLF)の金利を2.50%に据え置きました。MLFは政策金利に相当するローンプライムレート(LPR)を計算するベースになります。中国市場では、1月にMLF金利とLPR(22日公表予定)が揃って引き下げられるとみられていたため、据え置きはサプライズでした。米国の利下げ開始時期が見通しにくいなか、人民元安や資本流出を警戒し、利下げを見送った可能性が指摘されています。

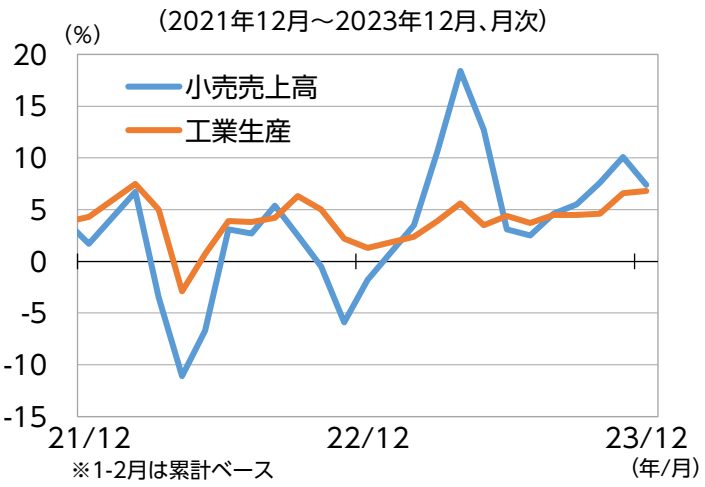
他方、16日には米通信社が「中国政府が1兆元(約20.5兆円)の特別国債の発行を検討」と報じました。昨年10月に続く積極的な財政出動で、当局は景気刺激策の強化を図っているとみられます。

今後の注目は、3月の全国人民代表大会(全人代)で公表されるとみられる2024年の成長率目標です。世界銀行が9日に公表した成長率見通しは+4.5%でしたが、市場では23年と同じ「5%前後」を見込む声が多い状況です。

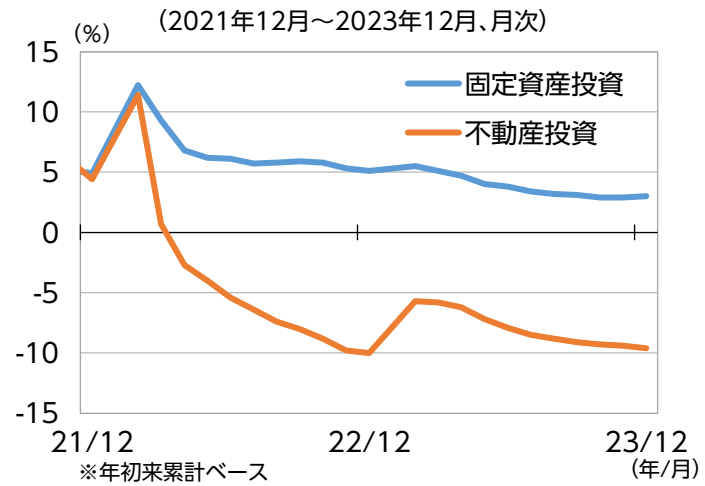
【図1】実質GDP成長率(前年同期比)



【図2】小売売上高と工業生産(前年同月比)



【図3】固定資産投資と不動産投資(前年同期比)



(出所) Bloombergのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。